

国民生活産業・消費者団体連合会

『食品廃棄削減に向けた消費者意識調査結果報告書』

まとめ：ごみかん運営委員 小野寺 勲

食品関連の製造・流通事業者や消費者団体によって設立された国民生活産業・消費者団体連合会（略称：生団連）が、食品廃棄削減に向けて、消費者の意識を把握するために実施したアンケート調査結果。世帯の食事管理者を対象として、2013年11月にインターネットで調査。有効回答数 1,683 件。

その中から、食品廃棄に深く関わっている消費期限・賞味期限に対する消費者の意識をピックアップして紹介します。

大部分の人は、消費期限や賞味期限を確認した上で購入しています。

消費期限や賞味期限を過ぎたら、飲食できるかどうかを五感で確認することなく直ちに廃棄する人が、消費期限については約 6 割、賞味期限については約 4 割います。

■ 購入時の消費期限・賞味期限の確認

	鮮魚や精肉などの消費期限	冷蔵の商品の賞味期限	常温の商品の賞味期限
・確認して新しい物を購入する	59.9%	56.6%	50.4%
・確認するが、期限間近でなければ特に気にしない	33.7%	33.2%	32.1%
・あまり確認せずに購入する	5.9%	9.7%	17.2%
・わからない	0.5%	0.5%	0.4%

■ 消費期限・賞味期限を過ぎた場合の飲食の判断

	消費期限	賞味期限
・期限を過ぎたらなんとなく飲食したくない	16.3%	11.8%
・期限を過ぎたら危険なので飲食しない	33.0%	4.5%
・期限を過ぎたら美味しくなくなるので飲食しない	9.0%	25.5%
・期限を多少過ぎたのであれば、五感で確認して飲食するかを決める	33.0%	43.7%
・特に期限は気にせず、五感で確認して飲食するかを決める	8.4%	14.0%
・その他	0.3%	0.4%

■ 食品廃棄理由（複数回答）

・品質（味・見た目・風味・食感）が劣化したから	54.7%
・品質の劣化はなさそうだが、消費期限を過ぎたから	23.7%
・品質の劣化はなさそうだが、賞味期限を過ぎたから	16.5%
・量が多かったから	7.3%
・味が好みでなかったから	13.6%
・飽きたから	2.1%
・すぐに食べる予定がないから（期限までに使い切れないから）	9.7%
・買い置きがあったのに新しいものを買ってしまったたり、貰ったりしたから	5.1%
・廃棄しないので当てはまらない	17.7%
・その他	1.4%